

平成 30 年度 第 2 回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 平成 30 年 10 月 5 日（金）13 時 30 分～15 時 20 分

場所 川口市議会第 3 委員会室

出席者（委員） 利根会長 増田副会長 岩崎委員 野口委員 原田委員
丸山委員 飯田委員 田中委員 寺久保委員
鈴木委員 布施委員 森委員

（事務局） 古澤生涯学習部長 森岡文化推進室長 立花室長補佐
青木アートギャラリー館長 保坂主事

（運営支援） 丹青研究所 大木 外山

議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 自己紹介

4 議事

議題（1）市民ニーズの把握について

【質疑応答】

（委員） 「美術館建設に関するアンケート調査」の問 5 の美術の拠点とは、
どのようなものを想定しているのか伺いたい。

（事務局） 特に定義はしておらず、回答者に音楽の拠点である川口総合文化
センターリリアと対比してイメージしてもらうことを意図した表
現である。

（委員） 基本構想にはどの程度、市民ニーズを反映させなくてはならない
のか伺いたい。

（会長） 各調査は、美術館建設を検討する上での基礎情報として位置づけ
られるのではないか。

（事務局） 検討に際し広く市民の意見を収集するため、調査を
行った。また、約 350 名の方が加入し、古くから本市の美術活動を
牽引している川口市美術家協会や、市の情報配信サービス登録
者にも調査を行っている。

これら市民ニーズを反映した川口市美術館のめざす姿について、
事務局案を本日の議題（3）で提出する。市民の意見をどの程度
踏まえるべきかについては、事務局案とあわせて審議頂きたい。

議題（２） アートギャラリー・アトリアの現状と課題について

【質疑応答】

- (委員) 具体的な評価結果について伺いたい。
- (事務局) 教育委員会と市、それぞれで評価を受けているが、教育委員会の外部評価では施設の利用率を評価指標としており、概ね達成できているとして、A・B・Cの3段階の評価でB評価を得ている。市の外部評価では、企画展と共催展の入場者数を評価指標としているが、PR手法を工夫するなど広報活動の強化や、共催展における関連団体等との連携強化について指摘を受けた。
- (委員) アトリアの活動内容からすると入場者の多くが市民であると想定される。入場者数が5万人以上（平成29年度）ということは市民の1割強が訪れているということであり、大変評価できる。東京都の人口は約1,300万人、海外や地方からの来訪も多いなかで、東京都の主要な施設の入場者数は数百万人という。数字からは都民の1割も来場していないと推察され、アトリアに市民の約1割が訪れているという結果は、非常に評価できるといえる。
- (委員) アーティスト・イン・スクールでは、何校にアーティストを派遣しているのか伺いたい。
- (事務局) アーティストと濃密な時間を過ごすことによる充実した体験を得ることを目的としているため、アーティストのスケジュールや対応可能な児童数等を踏まえると、現状では毎年1校、50名程度の児童への実施となっている。
- (委員) 実施可能な学校数が限られると、希望する学校が重なるのではないかな。
- (事務局) 対象校については、学校教育部と連携し、市内10地区で偏りの出ないように調整している。
- (委員) 入場者数について、多いとはいえないのではないかな。また、貸館の件数が少なく、川口市美術家協会の会員が利用する機会も限られている。内部評価ではPRの強化が指摘されているというが、魅力的な情報発信のあり方や、川口市美術家協会会員には必ず情報提供するなど、発信方法のあり方を検討する必要がある。
- (委員) 平成25年度と29年度の予算を比較すると2割近く縮小されている。これは市がアトリアや文化活動に対して期待していないということなのか。そのような状況下で美術館を整備して大丈夫なのだろうか。

- (委員) 川口市美術家協会会員ですらアトリアの取り組みを知らない状況であり、積極的に周知することで利用者も増え、状況も変化するのではないかと。
- (委員) 金沢 21 世紀美術館の成功の秘訣として、継続的に市内全ての小学校から児童を招待していることがある。アトリアでは同様の取り組みは難しいのか伺いたい。
- (事務局) 学校団体の受入が不可能というわけではない。しかし、アーティスト・イン・スクールについては、アーティストの日程確保等から複数校での実施が難しい状況にある。
- (委員) 学校教育のなかで美術館を訪れることはあるのか伺いたい。
- (事務局) 本市では、現在のところ美術館訪問は行われていない。
- (会長) アトリアを訪問してもらうためには、その場でどのような体験を提供できるのかということが重要なのではないかと。
- (委員) 生徒が美術館に行く機会をつくってはどうか。
- (会長) それは教育局で検討すべきことであり、まずはアトリアのなかでどんな取り組みを行うべきなのかが重要である。
- (委員) 学校教育の面からみてアトリアの活用方法がわからないのではないかと。教育の現場が多忙ななかで美術館としては何ができるのかなど、様々な状況に柔軟に対応できるあり方を検討し、市民がよるこぶ美術館をめざすべきである。

議題（3） 川口市美術館のめざす姿について

【質疑応答】

- (委員) 資料にはアートと表現されているが、アートと美術をどのように定義しているのか伺いたい。近代美術はファインアートとあって、作品そのものが一つの芸術作品として簡潔するものである。現代アートは、多様な人々の作業やメディアなど様々な要素をつなぎ合わせて作っていくという方策のことである。日本はファインアートの形式を輸入するのに 150 年ものあいだ努力を重ねてきた。しかし、気がついてみれば海外ではビジュアルアート、イベント、パフォーマンス、映像など目に見えるものをすべて含めてアートと定義している。その点を踏まえると、アトリアではアートを取り上げており、また、美術教育の現場でも世界の動向に合わせた流れをくんでいるといえる。
- しかし、美術館とは美しい記憶と追想を保存する場であると、古くから定義されている。近代的な美術館とはナポレオンが国の権力者の宝を広く公開したのが始まりである。

(委員) 現代アートを理解するためには作者による解説が必要となることが多い。ただ、美術館で扱うものは芸術論で決めるのではなく、川口で扱うべき作品を検討すべきである。多くの人が興味を持つ企画や、可能であればレベルの高い作品など、多くの市民が関心を寄せるような作品を取り上げるべきである。それをアトリアと美術館とで役割分担するべきではないか。街は刻々と変化しており、市民の意識も変わっていくものであるので柔軟に対応できるあり方を検討すべきである。

なお、運営には専門員を配置するなど、役所の職員人事に依らない専門職の配置を検討してはどうか。

扱う作品は川口だけにこだわらなくてもよいのではないか。

(委員) 資料の3. 川口市がめざす文化芸術の姿にある、アトリアと美術館の役割分担は、事務局案の通りでよいのではないか。

4. (1) 川口市美術館のコンセプトは、キーワードとして納得しやすいものである。

(2) 川口市美術館の使命については事務局案で概ね良いと思われる。全国の美術館にも当てはまるようなキーワードであるが、行政文書という性質を踏まえると一般的なキーワードにとどめておくことは納得できるし、(4) 展開する事業活動のなかで川口らしさを示しているので、概ね良いのではないか。

なお、(4)の1. 親しむ事業の①基本的な考え方にある、川口にゆかりの深い作品の収集・保存というのは良いキーワードである。2. 育む事業の①基本的な考え方では、「川口の美」をどう定義づけるのかという課題はあるが概ね良いと感じる。3. 創造・発信する事業としては、川口発の新たな文化創造をめざす、というキーワードでまとめており、これも良いのではないか。

なお、ぜひ加えてほしい要素がある。先日ニューヨーク市を取材した折りに、市の文化芸術に携わる方からニューヨーク市とニューヨーク州政府が発行した「産業としてのアート」という報告書を提供いただいた。この報告書によると、ニューヨーク市役所ではアートを産業と捉えている。アートの活動を通して市全体に210億ドル(約2兆円)の経済効果がもたらされている。文化芸術分野で雇用が16万人創出され、その労働者が8千億円の給与を得る。ニューヨーク市では文化芸術活動を通して1千億円の歳入があるという。

人口800万人の世界的な大都市であるニューヨーク市と川口市とを単純に比較はできないが、3. 創造・発信する事業のなかに、文化芸術を通して多くの人が交流し、市民がいきいきと活動する

とともに、市全体の経済の活性化につながるような要素を加えてほしい。

(委員) 是非とも加えてほしい。(3) 事業の柱のなかにも、そういった内容が含まれるような表現が加えられると、独自性のある施設となるのではないかな。

(委員) 様々な場面で市長が美術館整備について触れているが、反対する意見も聞かれる。美術館の整備が文化振興だけではなく、経済振興や地域振興に寄与することを含めると、より多くの市民の理解が得られるのではないかな。

(委員) 昨今のまちづくりの流れを踏まえると、美術館はアートで行えるコミュニケーションの拠点であると置き換えることができる。そうすると人の流れが増え、人々の前向きな姿勢が高まっていくと考える。創造的なコミュニティとは良いところを見つけ、課題については自分たちで対処していくことができる。

事務局案には美術館のあらゆる機能が網羅されているが、地方自治体が整備する美術館としては人々のコミュニケーションを高めていくことに寄与することが重要であり、アートを通して表現することを経験する美術館というのがよいのではないかな。

オーストラリアの中等教育では、全校で映画制作を行っている。国語の授業としてシナリオを作成し、社会の授業として現地ロケのための警察や商店などとの交渉を経験する。さらに、数学の授業として資金管理をするなど、すべての講座を通して映画という表現活動に関わる時間を確保している。川口市で取り組んでいるアーティスト・イン・スクールを更に発展させると、そのような授業になるのではないかな。

また、アートを見せるということと、アートで表現するということを明確に分けたうえで、川口では何ができるのか、また、川口らしさとは何かを議論する必要がある。アトリアでは、川口らしさを集めるプロジェクト「川口百景」という取り組みを行っていた。川口らしさを出すためには、川口をアートで表現してもらおうプロジェクトを一つの柱として検討してはどうか。さらにアトリアで行われた「川口の匠」ではどのようなものが取り上げられたのかを委員会の資料として提供してもらい、「川口らしさ」について議論する必要がある。

具体的に川口でできることを検討していくと、人々のコミュニケーションが高まり、地域経済の活性化にもつながる効果が得られるのではないかな。

- (委員) アトリアと美術館との関係において、連携協力とした場合おそらく共倒れになるのではないかと。アトリアを川口市美術館の分館と位置づけ、川口市美術館としての事業のなかで何を担うことができるのかということを確認していく必要がある。
- (委員) 先ほど、アートと近代美術は異なるというお話があったが、大変衝撃的であった。市民の視点からするとアートも近代美術も混同されている。そこで、アトリアでは現代アートに特化し、美術館は本来の美術館という方向にしてはどうか。
そうした場合、本検討では市民の混乱を避けるためにも、アートという語彙表現を少なくしてはどうか。
議会でも美術館整備に対して疑問を抱く議員はおり、これまでの美術館＝ハコモノといわれるものを作るのではなく、川口の産業振興等に寄与するような美術館づくりをめざしていることを示すことで、整備に向けた前向きな議論が進められるのではないかと。
- (副会長) 美術館として優れた作品を見せるだけでは消極的である。ビジネスとして捉える美術の世界があるとすると、市民に何を訴え、市民から何を得ていくかということを検討することが大事である。言葉にとらわれすぎずに、市民に何を訴えていくかをじっくりと検討する必要がある。この意味においては美術館も立派な作品の一つといえるわけで、委員から紹介のあった海外における美術の捉え方なども参考としながら、他にない美術館を実現させたい。また、グローバルと変革、伝統文化といった視点から美術館を捉えてはどうか。美術館を動かすには様々な点においてお金が必要となるため、人と人や、人と作品のコミュニケーション（を通して理解を得ること）が重要であり、その意味においては可能なかぎり優れた作品を借用し公開することも必要である。
- (会長) アトリアと美術館を切り離して議論すべきなのか、事務局に確認したい。委員のご意見にもあったが、第5次川口市総合計画等を踏まえ、川口市として美術館のあるべき姿を議論すべきと捉えていた。
- (委員) 「川口の美」の芯となる部分はあると思われるが、川口のみならず、埼玉やそれ以外の作品も取り上げようじゃないかという川口市市民の気概を持ってほしい。さらに、産業の活性化とともに、憩いの空間というのもあってほしい。

- (委員) 会長も指摘されているように、どの範囲について議論すべきか明確にしてほしい。
- (事務局) 川口市の美術館がどうあるべきかについてご協議いただきたい。なお、本市には文化芸術審議会が設置されており、まちづくりにおける文化芸術全体について議論される場である。川口市美術館のあるべき姿がまとまった段階で、文化芸術審議会につなげるものと考えている。現在、川口市文化芸術基本計画を作成中であるが、美術館のあるべき姿がまとまれば計画へ盛り込むことも想定される。本審議会では、あくまでも美術館が本市においてどのような使命を担うべきかという点について議論頂きたい。
- (会長) 次回の審議会では、本日の委員の意見を踏まえた修正案を提示いただく。なお、あくまでも本審議会の前提は、どのような美術館をめざすかについて議論することとする。
- (委員) 事業内容も含めて検討していく必要がある。

議題（４）その他

- (事務局) 本日欠席の委員より資料を提供いただいたので、次回の審議会にて提出する。

5 閉会